

# 世界初のヘッドランド事業により43kmの海岸線で砂浜が回復



- 昭和50年代後半頃から鹿島灘海岸では、侵食により砂浜が大きく削られ、高波が押し寄せる大変危険な状況にありました。
- そこで、昭和60年度から世界初のヘッドランド事業に着手し、これまでに32基が完成しました。
- ヘッドランドにより、白砂青松で知られる茨城の砂浜43kmが徐々に回復しています。



ヘッドランドは、「岬に挟まれたポケットビーチは、侵食を受けにくく、安定する」という自然の原理を応用したものです。

43kmの海岸線は、県全体の4分の1に当たります。

## ヘッドランド事業の概要

- 計画基数 … 40基（延長約43km）うち32基完成（H16末時点）  
約1km間隔に大洗町から神栖市まで
- 事業期間 … 昭和60年度～
- 1基あたりの事業費 … 約4～5億円

景観を考慮し、県内産の白御影石を用いて白い砂浜との調和を図っています。

